

Ⅲ 松商学園高等学校

1. 基本方針

下記の内容に重点を据え教育を推進する。

- ①普通科・商業科の教育内容について検証し、一層の充実をはかる。新教育課程を改善する。
- ②大学進学等、生徒の進路実現へ向けて指導を徹底する。
- ③クラブ活動の一層の充実をはかり、より高い目標を実現しつつ学園を活性化する。
- ④国際交流等を通して、次代のリーダーとしての資質・能力を育成する。

2. 学習指導・内容の充実と進路実現

1) 商業科

- ①創立以来一貫して続く本校のルーツである商業教育を通し、地域に貢献する人材の輩出をすべく、地域に根差した商業教育と技術革新に対応した情報教育等をさらに充実させる。ビジネスに関する一般的知識だけでなく、会計・経済・情報などの専門的知識と技術の習得、諸検定での上級合格者の増加を目指し、職業人・商業人として必要な態度を育てるための体制を確立する。
- ②大学進学希望者が大半を占める現状に対応するため、より高度な資格取得を目指しつつ、一般・専門教科の学力向上も図っていく。2年次からの2コース制の実施により、情報関連および会計関連の資格取得に特化したきめ細かい指導を進める。
- ③松本大学・松商短大との連携について引き続き研究、推進する。具体的には、大学との接続を検討し、高度資格の取得を前提とした5年制および7年制に向けた検討を進める。
- ④地域や大学と連携した商品開発プロジェクトや実践的教育を推進する。開発商品の積極的なPRや販売実習等を年間通して県内外で行う。
 - ・各種資格検定試験への取り組みを強化し、上級取得と競技会での全国大会出場等の実績を残した。
 - ・地元食材を活用した新商品開発事業を実施した。
 - ・地方、地元地域の課題について調査研究を実施し、その成果を全国大会(県内外)で発表した。
 - ・外部講師による特別授業を実施した。(租税教室・男女社会参画)
 - ・商工会議所、青年会議所等の団体と連携、協力しボランティア活動を行った。

2) 普通科・総合進学コース

- ①クラブ活動の実績も生かして希望の進路を実現させる生徒もいるため、効率の良い活動により基礎学力を定着させる学習指導を更に工夫する。
- ②「総合的な学習の時間」を活かし、生徒の意欲・知性向上を図ると共に、進路決定にも生かしていく。
- ③英語技能検定・漢字技能検定等の資格取得に挑戦し、進路実現の幅を広げる。
- ④土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。
 - ・クラブ活動との時間的両立が困難であり、補習授業の成立は不可能であった。
 - ・朝のホームルーム時間を利用した小テストは年間を通じて実施した。英語・国語・数学の3教科を軸に担任が指導する中で、着実な基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指した。
 - ・「総合的な学習の時間」に関しては、大学入試などの選抜に挑む場合に求められる能力の修

得につながる取り組みを実施できた。

3) 普通科・文理進学コース

- ①生徒の学力向上および生徒の学習時間確保のために、通年実施する補習授業や長期休業中の補習授業を強化する。
- ②大学入試における負担の増加の対応するため、科目履修を類型選択により効率化し、より効果的な教育活動を展開する（A類は私立文系、B類は国公立型文系、C類は理系選択）。
- ③漢字能力検定・英語技能検定において、上級合格を目指し、補習を強化していく。
- ④0限・7限の選択授業の実施。
- ⑤土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。

- ・信州大学、富山大学、大阪教育大学をはじめとする国公立大学に7名が現役合格した。特に推薦入試での健闘が光った上に、将来教職を志す者が目立つことも特筆できる（信州大学には2名合格し、1名は教育学部。大阪教育大学は教育協働学科に合格）。
- ・AO および推薦入試においては高い適性と努力を示し、高い進路決定率を示している。一方で一般入試に挑戦する生徒の人数が少ないため、効果的な対策が取りづらい。今後の課題である。

4) 普通科・選抜進学コース

- ①校外模試・進学ガイダンス等を通じて受験生集団における自己の学力を的確に把握し、大学受験に対応できる学力を培う。
- ②3年生については秋期より特別編成授業を実施し、受験に向けて徹底した指導を実施する。
- ③土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。

- ・選抜機能が高い大学への進学を目指す目的は共有する一方で、クラブ活動と学業との両立に悩む生徒も見受けられるコースである。生徒は厳しい環境の中でよく努力し、教員も的確にサポートした。
- ・国立大学の関しては信州大学、茨城大学、富山大学への現役合格を果たし、近畿大学などの中堅私立大学へも合格した。
- ・一方で伸び悩みを抱える生徒も一定数見られたことが今後の課題である。

5) 普通科・特別進学コース

- ①1年次冬季に海外語学研修を新たに実施。（期間は2週間、実施地英語圏）今後は国内における英語研修に切り替え、より効率的な取り組みを検討する。
- ②朝テスト、サテライト講座、夏季休業特別指導、オープンキャンパスツアー、大学見学会等の実施。
- ③土曜授業（1コマ65分×3）を充実したものにする。

- ・海外語学研修は、突発的な旅程の変更もあったが、現場での的確な対応により混乱なく無事に実施できた。生徒にとっては大きな成長の機会となった。
- ・本年度の在籍生徒数は9名と極めて小規模な学習集団であった。教員の指導が生徒の主体的な学習姿勢へと繋がり、意欲的な取り組みが実現した。結果としてお茶の水女子大学、金沢大学、新潟大学の難関・準難関国立大学への現役合格者を輩出し、私立大学に関しても上智大学をはじめとする難関大学への現役合格者を出した。

3. 進路指導について

1) 第1学年

- ①学級・コース別 PTA の開催、学校の方針を正しく伝え、保護者の理解を得る。
- ②基礎（中学）学力の充実をはかり、初期の段階で高校生活の学習習慣を身に付けさせる。

2) 第2学年

- ①各種 PTA 説明会を開催し、学校方針の再確認をするとともに、生徒・保護者の進路に向けてのモチベーションを高める。
- ②2年次後半にはガイダンス等を企画、進路が明確になり3年次へスムーズに移行できるようにする。

3) 第3学年

- ①進路決定の最終段階として保護者・生徒への進路ガイダンスを充実させる。
- ②就職者に対しては、公務員模試・SPI の学力対策と面接・社会マナーの講習を実施する。
- ③推薦合格者に対し、高校学力保障の観点から、模試・センター試験を利用する。
 - ・目標としていた進路確定率 95%を達成することができたため、各種取り組みが一定の成果を出していると考えられる。
 - ・以前は 10%ほどいた就職者が 5%となった。公務員試験に合格する生徒はやはり早い時期から意識を高く持ち試験準備をしている。
 - ・4年制大学への進学志向が高まる中で（本校 54%：全国平均 51%）、安易な推薦による進学形態にならないように指導を続ける必要がある。
 - ・特進コースからお茶の水大学現役合格も出ており継続指導の大切さを再確認できた。

4. 生徒募集について

- ①県に準じた主要5教科一般入試を推進する。
- ②県立の合格発表翌日に実施する一般入試Bをさらに熟考する。
- ③教育内容の特色を積極的にアピールし、『あこがれ・希望を感じる松商学園の魅力』をより強化し、情報発信を戦略的に徹底して行う。『学びたい学校』の立場を確立する。少子化の中の増募は難しい面もあるが、最大限の工夫と努力を行う。
- ④入試説明会、体験入学を充実させると共に、学校説明会は松本大学を借りて、学園の宣伝にも努め、積極的に情報発信を行い、生徒募集を推進する。
 - ・推薦入試について、特別進学コースにおいて部活動を保証する内容を含めたりニューアルを行った結果、自己推薦（併願推薦）での志願者数の倍増につながり、入学者数が大幅増になった。今後もこの方法は安定的な同コースの生徒確保になると思われる。しかし、同コースの志願者の大半がこの入試を利用した場合、一般入試Aの志願者は激減すると予想できるため、5教科入試の再考が必要である。一般入試Bについては、今回募集枠を超える志願者が集まった。中学側からの需要は今後もあると推察できる。
 - ・学園全体の宣伝も兼ねて、松本大学での学校説明会開催は有用であった。今後も、学校説明会開催時は同会場で実施したい。

5. 広報活動について

1) 広報活動全般に関して

ポスター、チラシ、体験入学、ホームページの充実、新聞広告(信濃毎日新聞・市民タイムス・タウン情報など)の広報活動を活発に行い、また、より効果的な内容、媒体等研究を深めることができた。次年度は、学校案内パンフレット・ホームページ・体験入学を改良し、より効果の得られるものにしていきたい。

2) 情報発信に関して

本校の歴史、伝統、多様性等を活かし、校友はもちろんのこと、地域への情報発信をタイムリーに行い、本校への関心をさらに高め、学校支援の基盤としての力(地域に愛される「松商学園」)をより一層高める。

- ・費用対効果を考慮し精選した。校内外で利用しやすいホームページを製作していきたい。
- ・校友・中学生・地域に対し、有用な情報発信ができた。

6. 生徒指導について

- ①HR・授業における挨拶と身だしなみの指導、開始時・終了時の挨拶の徹底、開始時の服装指導。
 - ②交通安全教育の充実・徹底
 - ③登校指導 制服の正しい着用、自転車マナーの徹底
 - ④校内巡視
 - ⑤携帯電話・携帯ゲーム機の指導
- ・全学年新制服となり、身だしなみ指導を特に強化した。
 - ・自転車事故を防止するため、スケアードストレートを実施するなど、様々な角度から指導した。
 - ・20時30分完全下校の徹底をした。
 - ・生徒会活動の自主性を重んじ、生徒主導の活動を促した。

7. クラブ活動について(平成29年度 顕著な成績)

- ①全国高校総体に73名が出場し、国体には17名が出場した。
- ②テニス部インターハイ団体準優勝 ダブルス3位
- ③第99回全国高等学校野球選手権大会 9年ぶり出場 1回戦突破
- ④女子バレー部 第70回全日本バレーボール高等学校選手権大会に2年連続出場した。
- ⑤第26回全日本高等学女子サッカー選手権大会 ベスト8
- ⑥全国高等学校選抜スキー大会 SL優勝 SG準優勝
- ⑦全国高等学校空手道選抜大会 男子個人形 準優勝 女子団体組手 3位

8. 保健衛生・健康管理の推進

1) 生徒・職員の心身の健康維持

健康診断でチェックされた生徒には、早めに受診通知書を出し、その後の治療結果まで確認をとる。また、要観察の生徒については、必要であれば保護者と連絡を取り、関係職員の中で情報を共有し対応する。保健室で把握した生徒の心の問題・身体等の既往歴に関する情報は、校

内委員会で情報を共有し、サポートする。健康増進についての研究・講習会等増やし、生かせる活動を展開していく。職員の知識向上のため、年に1回は研修会を行い、精神保健について全職員が学ぶ機会を設ける。

2) 生徒への教育（健康教育、感染症予防の徹底、性教育、DV防止、薬物乱用防止）

3) 緊急体制づくり（安全な環境づくり、危機管理マニュアルの徹底、災害時マニュアル保健室用徹底）

- ①AEDの設置場所増設。
 - ②インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症に対し、生徒、保護者、職員に保健だよりを配布し予防指導を行う。
 - ③殺菌用消毒石けんとアルコール消毒の設置を行う。
 - ④感染症が出た場合の速やかな対応体制により感染拡大を防ぐ。
- ・生徒・職員の心身の健康維持には、まず関係部署における情報共有が第一として、連絡を密にするように心掛けた。
 - ・すぐに効果が表れるものではないが、ストレスチェック、保健だより、熱中症予防の講習会等の啓蒙活動を行った。
 - ・感染症への対応は、従来通り予防対策も含め早めの対応を心掛けた。

9. PTA活動の推進

各種事業を積極的に計画・推進し充実した活動を展開していく。

- ①教育活動(学習活動、クラブ活動)に対して、効果的な財政的支援を研究し、推進していく。
- ②私学助成活動を積極的に推進し、陳情活動の実施と、署名活動の協力を行う。
中信地区私学助成推進協議会の事務局として、各校PTAとともに陳情活動を主導する。
春と秋に教職員が行っている教育条件の改善を求める署名活動に協力する。
- ③PTA地区会を多くの地区で開催することにより、保護者との意見交換を図りたい。
 - ・①については、多くの生徒の活動に支援が行き渡るよう規程の見直しに手をつけた。
 - ・②については、多くの市町村に私学の魅力をアピールしつつ教育経費への補助を訴えた。
 - ・③については、安曇地区の多くの保護者と地域を取り巻く問題について意見を交換した。

10. 環境整備の推進

1) 環境関係について

地道な日々の清掃活動が主であるため、厚生委員会による巡視を徹底していく。

2) 施設関係について

必要備品であるロッカーや下足箱が適正に配置されるよう割り振る。

3) 防災・防火関係について

年2回義務付けられている防災訓練のうち、一回は全クラスに対する防災ビデオの上映ともう一回、総合防災訓練を企画する。特に総合防災訓練では、救護所の設置、トリアージ、けが人搬出、消火器訓練、放水訓練、非常用トイレの設置等多岐に渡るものを企画していきたい。

- ・環境美化については、全HR、および各クラブに清掃分担区域を割り当て、毎日の清掃と月1~2回の特別清掃を励行した。文化祭では厚生委員会を中心となり生徒会主体で環境整備を行った。また、早朝など、自主的に校舎内外の美化に協力するクラブも見られた。

- ・翌々年度の創立 120 周年を期として、教室内装、廊下壁塗装を刷新した。
- ・最寄消防署の協力指導を得て、9 月に総合防災訓練を実施した。

1 1. 国際交流活動の推進

- ①8 月、釜慶高等学校サッカー部が来校し、本校サッカー部と交流試合をする予定
- ②10 月、釜慶高等学校よりホームステイ生徒を受け入れる予定
- ③3 月、釜慶高等学校へホームステイ生徒が訪問の予定
 - ・①については、台風の影響により中止となる。
 - ・②、③ともに計画通り実施できた。
 - ・10 月のホームステイ受入は、5 名の生徒が来校し、授業参加・観光等充実した交流となった。
 - ・3 月のホームステイは 10 名の生徒が希望し、授業に参加したり、観光地を巡りながら歴史を学び、有意義な時間が持てた。

1 2. 特別支援教育について

- ①中高連絡会での情報と担任による入学後早い時期の生活観察等から不応生者の早期認識をし、不応生者と保護者への対応を迅速かつ丁寧に行っていく。
- ②特別支援コーディネーターを設置し、学年主任・学級担任と養護教諭・スクールカウンセラー等の連携を密にし、一人ひとりの生徒の心身両面についての的確に理解し、医療機関との連携も図っていく。
- ③特別支援教育について、研修を重ね理解を深めていく。支援が必要な生徒について個々のケースに応じて支援シートを作成し、教育センターと連携対応していく。
 - ・特別支援コーディネーターを中心に、合理的配慮を必要とする生徒への対応ができた。
 - ・観点別評価を導入し、学習障害の疑いのある生徒に対して適切な評価ができた。
 - ・発達障害に関する職員向け研修を実施した。

1 3. 情報管理について

1) 学事システムについて

成績処理だけでなく学校生活に関する様々なデータ処理を「メソフィア」に一元化することに努める。このデータベースシステムを安全に運用し業務の透明性を確保する。

2) 入試システムについて

「メソフィア」によるデータ処理をスムーズに行い、データの一貫性を確保する。

3) ネットワークの安全性の確保について

セキュリティの方策を研究し安全に業務が遂行できるようネットワークを整備する。

- ・①については、多くの部署に参加を呼びかけた。かなりの業務効率に繋がった。
- ・②については、データ移行の手間が軽減され、間違いが減少した。
- ・③については、サーバの管理を中心に機密遵守に心懸けた。

1 4. 図書視聴覚教育について

1) 図書館教育

学校図書館の環境整備及び利用促進の啓蒙活動。図書委員会の生徒会活動（図書当番 文化祭

展示等)の指導。学園内の図書館(松本大学図書館、松商学園高校図書館、秀峰中等学校図書館)相互利用の促進

2) 視聴覚教育

視聴覚室の授業利用等の援助協力。視聴覚教材の補充

- ・定期的な図書委員会を開催し、利用の促進に努めた。
- ・新刊本の紹介を定期的に行い、全職員及び生徒に配布した。
- ・教室内のテレビの故障を直し、全教室同じ環境になるよう環境を整えた。

15. 教職員の研修について

- ①初任者研修 (5月下旬)、②PC 初任者研修 (5月下旬・7月上旬)、③教授法研修 (5月下旬)、④小論文指導研修講座 (6月中旬)、⑤人権教育研修 (7月上旬・10月下旬)、⑥特別支援研修 (11月下旬)、教育セミナー等の積極的参加。
- ・高大接続、大学入試改革についての講習会に積極的に参加した。
- ・長野県総合教育センターが開催する各種研修に参加した。

16. 学校評議員制度(学校関係者評価委員)の充実

- ①本校の教育内容・成果等について評価を受け、学校として教育力や教職員の意欲を向上できるよう努める。
- ・平成29年度未評価のままであったので30年度は学校創立120周年でもあり、計画的に実施したい。

17. 学校施設・環境整備等について

- ①老朽化に伴う改修箇所調査を行い、工事規模を検討する。
 - ②優先順位を検討し、改修工事の計画と実施を行う。
- ・平成28年度の普通教室棟第1期改修工事(外装:屋上防水シート張替、外装塗装、教室内窓への飛散防止フィルム貼付、一部防球ネット貼換他)の実施に引き続き、平成29年度は普通教室棟第2期改修工事として教室や廊下の内装(塗装、照明LED化、カーテン入替他)を実施した。この改修では、教室内に腰壁ボードを敷設したことで汚れが目立たなくなったこと、照明を蛍光灯からLEDに変更したことで、普通教室棟の照明器具の交換作業が大幅に軽減された等の改善となった。
- 次年度以降については、普通教室棟以外の照明器機(蛍光灯)のLED化、および体育施設等の水銀灯からLED化への検討や、全体的に建物の経年劣化が進んでいるため改修等を含め、早急なマスタープランの作成が必要と考える。

18. キャリアサポートセンターについて

- ①地元への就職支援を行う「第7回 松商学園卒業生就職セミナー」を開催する。
- ②長野県内に事業所を設置している企業約1,800社へ求人依頼を実施し企業情報を収集する。
- ③松商学園高等学校校友会との連携を強化する。

・平成 29 年度は、前年度に引き続き就職解禁直前の 2 月下旬に就職セミナーを実施し、約 30 名余りの学生および保護者に参加頂いた。参加者からのアンケートでは、県外へ進学した地元就職を希望する学生にとって、県内企業の業界研究ならびに直前の面接対策ができて良かった等の評価であった。

昨今の就職環境は、過去の就職氷河期と言われた就職難の状況から一転し、少子高齢化の背景もあり売り手市場となっているため、来年度以降については、就職難であった時のセミナー形式から採用難のサポートについて検討することが必要と考える。

《平成 29 年度 DATA》松商学園高等学校

1. 生徒在籍状況（平成 29 年 5 月 1 日現在）

学科 学年	商業科			普通科			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年生	22	54	76	189	203	392	211	257	468
2 年生	17	44	61	179	193	372	196	237	433
3 年生	23	50	73	168	202	370	191	252	443
合計	62	148	210	536	598	1,134	598	746	1,344

（男女比 男子44%：女子56%）

2. 職員構成（平成29年5月1日現在）

【教育職員】

	H29	H28	差異
校長	1	1	
教頭	2	2	
教諭	73	77	-4
養護教諭	2	1	1
常勤講師	1		1
専任講師	3	3	
非常勤講師	35	33	2
嘱託			
A L T	1	1	
クラブ指導員	8	8	
合計	126	126	

【事務職員】

	H29	H28	差異
事務長	1	1	
課長	2	2	
課長補佐	1	1	
主任	2	2	
主事	4	3	1
事務嘱託	2	4	-2
校用技師	3	3	
施設管理員	3	3	
学校医	8	8	
薬剤師	1	1	
合計	27	28	-1

3. 生徒進路状況（平成 30 年 3 月末日）

学科	区分	進学者	就職者	その他 (浪人・家居他)	卒業生数
商業科		58	10	5	73
普通科		338	11	19	368
計		396	21	24	441

進学者内訳

学科	区分	四年制大学	短期大学	専修学校	計
商業科		24	15	19	58
普通科		215	48	75	338
計		239	63	94	396